

こんなはずではなかった・・・ ノーリフティングケア2年目の苦悩

社会福祉法人 **朝老園**
特別養護老人ホーム **朝老園ひさみつ**

ノーリフティングケア2年目の実践目標

ノーリフティングケアの教育・実施体制の再構築！！！！



① 取り組み体制の再構築

- ・ノーリフティングケア技術を指導する職員のスキルアップ
- ・教育体制の充実

② ケア手順の見える化への着手

- ・スライディングシート・ボードを使ったマニュアルの作成、福祉用具チェックリストの整備
- ・動画作成(いつでも、どこでも視聴可能)



ノーリフティングケア1年目の取り組み

ノーリフティングケア1年目の実践により、

- ①腰痛予防への意識付け
(安全・安心について取り組みの重要性の理解)
- ②コアメンバーのノーリフティングケアに対する意識改革
- ③福祉用具活用に対する職員の意識の変革(積極的活用)

につながった。

その一方で、

- ①すべての職員を巻き込んだムーブメントの構築
→ノーリフティングケアの理念は理解しているものの、すべての職員の実践に結び付けることができていない
- ②福祉用具や介護技術に関する情報収集や継続的研修の実施方法の検討

が課題としてあがった。

① 取り組み体制の見直し ノーリフティングケア技術を指導する職員のスキルアップ

令和5年度 3期生対象 指導者育成研修会 に 職員2名が参加

↳ 上記2名をコアメンバーにし、役割分担を明確にする

令和5年12月 ノーリフティングケア筑後地域連絡協議会の
実技講習会に参加

スキルアップ研修は確実に参加したものの...
他の職員への伝達研修が不十分



車いすでのスライディングシート
の活用により
びっくり！！

グローブの使い方は
難しい。スライディング
シートの方が
ベッド上のケアはし
やすい



手作りのスライディング
ボードも真似して
作ってみました



実技伝達講習

重心移動は簡単な
ようで難しい



スライディングシートを
使った寝返り支援
(重心移動を意識して)

スライディングボードの手作りは 福祉用具活用の動機付けに！

研修会で見た手作りスライディングボードを

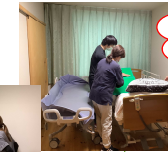
入居者さんに喜ばれた

簡単に手作りできた → 使ってみた → 安全に移乗できた → こいゃ、楽ね！

職員が福祉用具を **自ら作り、使う** ことで福祉用具の便利さを体験して、福祉用具に **関心を持ち**、ノーリフティングケアの **動機付け** となった。



不十分な体制の中
で、職員の意
識変革をどう進
めていくの
か・・・



職員への伝達研
修がおこないや
すくなった。



各ユニットに1枚は
作成しよう！！



具体的に実践！！

手作りのスライディング
ボードの使用で
スムーズに移乗でき
ます



これは、手軽
で、あまり力も
使わなくて移乗
が可能。

手作りのスライディング
ボードの使用で
安心だよ。無駄な力
を入れなくてもいい
から。

スライディングボード使用の
マニュアルを作成し、活用す
ることで誰でも実践可能

①取り組み体制の見直し：研修体制の充実

・年間を通した研修計画の策定



・職員の退職（コアメンバー1名、看護師1名、介護職2名）、同一法人への異動（コアメンバー1名）、長期療養のための休職（介護職1名）が重なり、シフト調整を優先的にする中で、計画的な研修実施が困難
・マネジメント研修への参加も限られた者のみになってしまった。



ノーリフティングケア委員会の再編成、
毎日の就業前後の腰痛予防体操の実施、
福祉用具の作成・積極的な活用 は実践



職員の福祉用具
への関心につな
がる！！

荷物に埋もれているスタンディングマシン(サラスティ)



積極的に活用



らくらく移乗車いす「乗助さんII」(デモ機)

使い方も簡単安定しているの、安心して移動可能

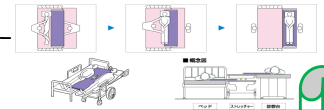
こわこわ...支えてもらっている感覚が安心するよ

②ケア手順の見える化への着手

- ・マニュアルの作成 : 着手 → 次年度に完成
- ・福祉用具チェックリスト : 定期的チェック実施、改良中
- ・腰痛レベル分け : 作成し、全職員に対して聞き取り中



マニュアルの一部: スライディングボードを使用した介助方法

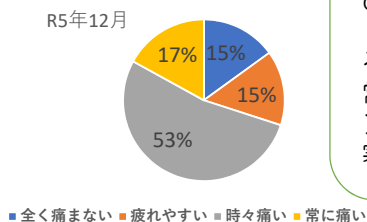
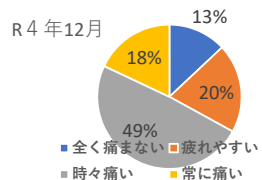
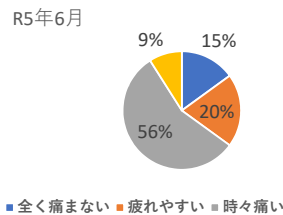
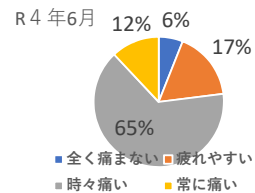


2年目の成果として...

- ① 実技研修を受講することで、参加した職員のモチベーションアップにつながり、他施設の取り組みを知ることにより、実際に自分たちで福祉用具を作成し、使用するきっかけとなった。
- ② 福祉用具チェックリストを作成し、チェックすることで、リスクの洗い出しをすることにつながった。
- ③ デモ機を含む福祉用具の活用を通して、安全・安心なケアの可能性を実感できた。
- ④ 全職員を巻き込んで、組織的に取り組むことが不十分であったと認識できた。

取り組みの結果...

◆令和4年、5年の6月・12月の腰痛調査の実施



2年間の取り組みを通して、腰痛状況の劇的な変化は見られなかった。昨年度に比較して、「腰痛の痛みを感じない」のポイントが若干高まったのは、腰痛体操の励行、ノーリフティングケアの意識が強まったためと推察される。12月に「非常に痛い」のポイント増の背景は、寒さの影響があると思われる

次年度に向けて

・ノーリフティングケア実施委員会の再構築

個々の委員の意識革命 → 統括マネージャーが旗振り役
各委員が自ら考え行動する
職員の不足を言い訳にせず、
どうしたらできるか、できない要因は何かを分析していく機運を醸成する
方策の検討
すべての職員を巻き込んだムーブメントの醸成

ケア手順の見える化の推進

ノーリフティングケアを浸透させる組織(チーム)作り